

◆◆◆◆ Boston Monthly ◆◆◆◆

発行日：平成30年8月20日

ボストン マンスリー 9月号

発行者：坂井 浩

8・9月の日程

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
8/19★	20 公立小学校始業式	21 中学生漢字検定	22	23	24 公立中学校始業式	25
26★	27	28	29	30	31	9/1
2★	3	4	5	6	7	8
9★	10	11	12 中3学力 総合Aテスト	13	14	15
16★	17★ 敬老の日 休講	18	19	20	21	22
23★ 秋分の日	24 振替休日 通常授業実施	25	26	27	28	29
30	10/1	2	3	4	5	6

9月度の日程と費用について

●9月度の授業

9月17日(月)敬老の日は休講としますが、

9月24日(月)秋分の日 振替休日は他曜日との回数

調整により、通常授業を実施します。

●9月度のお月謝について

銀行・郵便局口座引落の方は8月31日(金)にご指定の

口座より自動引落させていただきます。郵便局の払込取扱

票でご納入の方は9月5日(水)までに振込をお願いします

ます。

ボストンより一言

宮の森校 佐藤 清吾

「国語について思うこと」～ご父母の皆様、中3生へ

ボストンで、国語を教え始めてもう25年ほどになります。子供と向き合えば、向き合うほど、本当に教えるのが難しい教科だと感じます。大人の目から見ると、「なんで、こんな問題が解けないの?」と不思議に思うことが多々あることでしょう。そんな時にちょっと、こんなことを考えてみてください。

人は生まれてから今現在までの期間(小4生なら約10年間、中3生なら約15年間)、親兄弟を始めとした多くの周りの人々の中で暮らすことによって、またテレビや読書、最近ではインターネットなど、耳目を駆使して語彙を増やしていきます。

私を始めとした、大人の皆さんは、子供の数倍多くの年数を生きているのですから、自分の中に語彙を豊富にもっていて、様々な言葉を使って表現をすることができるのは当たり前のことです。生まれてから十年程度しかたっていない、彼ら彼女らにとって、大人と同じ語彙力を求めるのは酷というものです。私も幼いころの語彙力は貧相なものでした。

自然と備わっていくはずの日本語を使った学問を、子供たちは国語という教科で評価される対象とされています。男子より女子の方が国語はよくできる、年の近い兄や姉を持っている子供は語彙力を自然と多くつけられる環境が整っているなど、諸説がありますが、その子の育った環境を今さら変えられるべくはすもありません。成長するに従って自ずとその差は縮まっていき、一般社会に必要な語彙力は備わってきます。

子供の読解力が不足していると悩み、改善しようと様々な方法を考えることは大切です。しかし、本人が自覚して取り組まないと、あまり効果は得られません。かえって苦手意識を増幅させてしまうことも考えられます。

大事なものは国語という教科で自分ができること(漢字、慣用句、ことわざや部首、主語・述語・修飾語等の文法など)をサボらず取り組むことだと思います。漢字検定などは、そういう意味では最適なターゲットだと思います。小中学生のうちに、そんな習慣をつけることが最も大切なことなのではないのでしょうか。

しかしながら、中3生は受験に必要な国語の得点力をつけなければなりません。なかなか思ったような得点を取れない生徒が、数多くいます。そのような諸君は「何かを変えなければ現実是不変わる」ということに気づきましょう。

自覚して取り組む意志があるのなら、あと半年に迫った受験に向かって何か変化を起こしましょう。新聞を10分読む(何か興味を持った記事、テレビ欄を上から下まで等)、解かなくてもいいから問題集の文章を、読書感覚で2題読むなど、毎日、自分で積極的に文字を目で見て、頭で理解する取り組みを、継続して取り組んでみてください。読むことに対する抵抗感をなくすことが、とても重要なポイントです。取り組んだ後は、毎日ちょっとずつ進化していると信じましょう。

どんなことでも、変化がなければ進化はないのです。